MIPHA 特性推定機能(InverseAnalysis.dll) 導入手順書

(1) はじめに

本 DLL は、MIPHA 上で作成された特性予測モデルを用いて、目標特性曲線あるいは目標特性値を実現 する組織パラメータを高速抽出するためのダイナミックリンクライブラリ(DLL)です。

MIPHA 逆解析機能画面からの入力値を各公開メソッドに渡すことで、最適なパラメータ値セットを抽 出することが可能です。

(2) 実行環境の構築

〈動作環境〉

• Windows7/8/10

- •.NET FrameWork 4.6
- NeuralWorks Predict 3.31 (32bit/64bit版)

・Microsoft Office Excel 2010/2013/2016 (32bit版/64bit版)

MIPHA本体 (MIPHA. exe) の存在するフォルダ (以下では C: ¥MIPHA_VB とします) に、

• DLL InverseAnalysis.dll

、その下位に Inverse analysis フォルダを作成して、

初期設定ファイル InverseAnalysis.xml

を納品 CD の ¥MIPHA_逆解析機能¥実行環境 以下からコピーしてください。

	Cドライブ	
	MIPHA_VB	
	– MIPHA. exe	
	InverseAnalysis. dll	→DLL
	- Inverse analysis	→初期設定ファイル
	- InverseAnalysis.xml	
		→探索結果
	TopRatingCases_yyyymmddhhmmss.csv	
		→DLL 実行ログ
	└ InverseAnalysisD11_yyyymmdd.log	
	1	1

注) csv フォルダ、log フォルダは、DLL 実行時に自動生成されますので、環境構築時に作成は不要です。

サンプルフォーム(GASearch_Form)を参考に、画面から指定されたパラメータ値を各公開メソッド に渡してください。画面入力と公開インターフェースの定義については、資料(画面入力とDLL公開 インターフェース.xlsx)を確認してください。



サンプル画面 (Inverse Analysis.exe)

① フォーム画面ロード時

初期設定値取得クラス InverseAnalysis. InitialParameters の各メソッドで各入力項目の初期 値を取得し、画面に反映します。

② Predict モデルの選択

モデルファイル選択の際に InverseAnalysis. PredictModelFileRead クラスの GetTrainingDataVariableRanges メソッドで各変数の学習範囲情報が取得して、説明変数の探

索範囲の候補として画面へ反映します。

③探索開始「実行」

InverseAnalysis. GASearch クラスの GetOptimumValues メソッド実行します。本処理は多くの計 算時間が必要なため、BackGroundWorker クラスを使用して別スレッドで実行 (GASearchBackgroundWorker_DoWork) します。

- ④の進捗状況は InverseAnalysis. GASearch クラスの GetSearchProcessInformation を使用して 監視します。引数で渡される中間ログ情報を結果ログ画面に表示します。
- ⑤ 結果ファイル出力
 ③の終了時に生成されるファイル TopRatingCases_yyyymmddhhmmss.csv を開きます。
- ⑥「終了」

画面の入力項目を保存するタイミングで、InverseAnalysis. InitialParameters クラスに定義 された各パラメータに対応するメソッドを実行します。

以上